

3 伝統芸能等文化芸術関係団体等への現況及びニーズ調査の結果

(1) アンケート調査結果

I. 調査概要

1. 調査期間：2023年12月26日～2024年2月2日※締め切りは1月12日
2. 調査対象：伝統芸能・文化芸術関係団体 135件
3. 回収状況：65件（有効回答回収率 48.1%） ※1件無効
4. 調査項目
 - (1) 基本情報
 - ① 団体の活動分野について
 - ② 団体構成員の主な年齢層について
 - ③ 団体の構成員の人数について
 - (2) 稽古場所について
 - ① 稽古などを行う主な施設について
 - ② 稽古などを行う時間
 - ③ 稽古の場所を探す方法について
 - ④ 舞台発表や稽古場所の情報が必要となる場合、あればいいと思うものについて
 - ⑤ 稽古などを行う施設の使い勝手およびその理由について
 - ⑥ 稽古で使う施設の平均利用料金
 - ⑦ 稽古で使う施設の利用料金に対する印象（高い、安いなど）
 - ⑧ 稽古場所の充足について（足りている、不足している）
 - (3) 発表場所について
 - ① 舞台発表などを行う主な施設について
 - ② 舞台発表会などは1年間に何回程度行うか
 - ③ 発表会を行う時期について
 - ④ 発表会の場所を探す方法について
 - ⑤ 発表会で、よく使用される施設の使い勝手とその理由について
 - ⑥ 発表会で使う施設の平均利用料金
 - ⑦ 発表会で使う施設の利用料金に対する印象（高い、安いなど）
 - ⑧ 発表会で利用できる施設の充足について（足りている、不足している）
 - (4) 舞台道具について
 - ① 活動で必要となる道具・小道具・衣装などの保管スペースの有無について
 - ② 保管スペースの場所について
 - ③ 舞台道具・小道具・衣装などの保管スペースについて課題
 - (5) スタッフ・人材について
 - ① 専門スタッフの有無について
 - ② 専門スタッフの充足について
 - (6) 文化発信拠点の充実について
 - ① 県内の文化施設についての意見
 - ② 活動するうえで、既存の文化施設（劇場・ホール等）に不足している機能や付帯施設について
 - ③ 今後の文化芸術活動において、活動がしやすくなる支援策について
 - ④ 沖縄県の伝統芸能・文化芸術の振興にとって必要なことについて

II.調査結果

1. 調査対象団体

図表1. 市町村別・回答済伝統芸能・文化芸術団体

所在地	団体名(順不同)	件数
那覇市	① 渡嘉敷流二代目渡嘉敷守良道場 ② 琉球古典音楽安富祖流絃聲会 ③ 尚FEC オフィス ④ 琉球民謡音楽協会 ⑤ 緑間バレエスタジオ ⑥ 玉城流玉扇会 ⑦ 琉球舞踊 玉城流いづみ会 ⑧ 八重山古典民謡箏曲保存会 ⑨ 尚沖繩アクターズスクール ⑩ 沖縄芝居研究会 ⑪ 一般社団法人琉球フィルハーモニック ⑫ 沖縄尚学高校郷土芸能部 ⑬ 尚花やから(舞踊集団「花やから」) ⑭ 公益社団法人日本バレエ協会沖縄支部 ⑮ NS バレエアカデミー ⑯ 島袋流 千尋会 ⑰ 南条幸子バレエ研究所 ⑱ 一般社団法人ビューローダンケ ⑲ 玉城流翔節会 ⑳ 琉球舞踊宮城本流鳳乃會 ㉑ 劇団月城 ㉒ 一般社団法人沖縄オペラアカデミー ㉓ 男性舞踊グループ「逢菜」 ㉔ (一社)おきなわ芸術文化の箱	24
浦添市	① 安座間本流 ② 特定非営利活動法人 琉球交響楽団 ③ 茉莉花バレエ&ダンススタジオ ④ 国立劇場おきなわ 芸術監督 ⑤ 舞踊集団 飛琉 HARU	5
宜野湾市	① 玉木流琉装からじ結び研究所 ② 琉球古典音楽 野村流保存会 ③ Music Office ZENON(Hawaiian band LāLā ka pua) ④ 尚沖繩舞台	4
沖縄市	① 琉球古典音楽湛水流保存会 ② 琉球國祭り太鼓 ③ 琉球民謡芸能協会	3
うるま市	① 琉球國民謡協会	1
名護市	① 一般社団法人 創作芸団レキオス	1
豊見城市	① 島袋本流 紫の会 ② 琉球古典音楽 野村流伝統音楽協会 ③ 沖縄芝居研究会	3

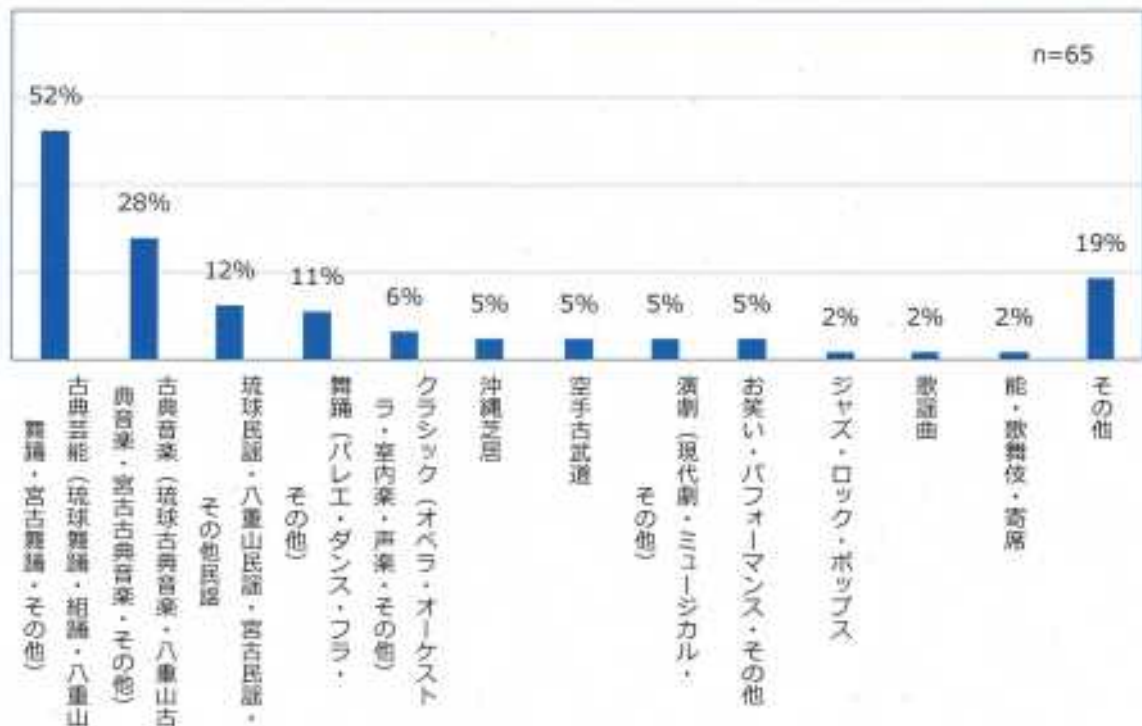
南城市	① 古武道 守礼之邦	1
石垣市	① 八重山農林高校郷土芸能部 ② 八重山高校郷土芸能部 ③ 八重山商工高校郷土芸能部	3
南風原町	① 南風原高等学校郷土文化コース ② 県立芸術大学音楽学部音楽学科音楽文化専攻 非常勤：樋口（高嶺）美和子 ③ 那覇八重山古典民謡保存会 ④ 琉球舞踊 太主流 華の会	4
八重瀬町	① 志多伯伝統文化保存会	1
与那原町	① 宮城本流鳳乃會 ② 渡嘉敷本流守藝の會	2
西原町	① 侘みいかじ MUSIC 沖縄	1
中城村	① 俳TEAM SPOT JUMBLE	1
北中城村	① 真境名本流凌雲の会会主 真境名律弘 真境名秀子組踊琉舞道場 真境名本流 真境名律弘組踊会	1
北谷町	① 侘新舞台	1
嘉手納町	① 琉球島唄協会	1
宜野座村	① 宜野座区二才団 ② 吉栄会	2
今帰仁村	① 謝名アヤーチ獅子保存会 ② 湧川路地楽保存会	2
伊江村	① 伊江村民俗芸能保存会	1
伊平屋村	① 伊平屋村民俗芸能保存会	1
宮古島市 /那覇市	① 琉球舞踊徳花会 宮古舞踊んまていだの会	1
不明	不明	1
	合 計	65

2. 基本情報

(1) 団体の活動分野について（複数回答）

団体の活動分野で最も多いのは「古典芸能」（52%）で、以下「古典音楽」（28%）、「琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他民謡」（12%）と続き、「空手古武道」や「その他」の創作エイサー、太鼓などを含めると、琉球文化関連が約7割を占めている。

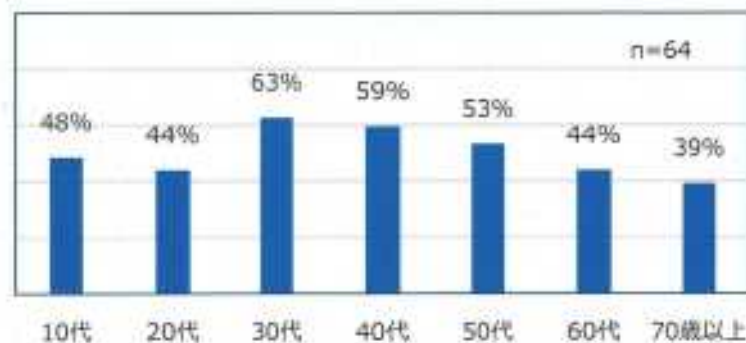
図表2. 団体の活動分野



(2) 団体構成員の主な年齢層（複数回答）

各団体に所属している構成員の年代は「30代」が63%で最も多く、次に「40代」（59%）が続く。最も年代の若い「10代」で48%、「70歳以上」でも39%が団体に所属しており、幅広い年齢層が文化・芸術活動に参加している。

図表3. 団体構成員の主な年齢層



活動分野別で年代構成をみると、「古典芸能」は10代と30代が67%で最も多く、「古典音楽」は50代(61%)、「琉球民謡」は40代～60代(75%)、「舞踊」は10代(71%)など、分野により主な年齢層に違いが見られる。

古典芸能で10代が多いのは、沖縄尚学高校郷土芸能部など高校の郷土芸能部5校から回答があったことも影響している。また、舞踊で10代が多いのは、沖縄アクターズスクールや3つのバレエ教室から回答があったためである。

図表4. 活動分野別・構成員の主な年齢層(複数回答)

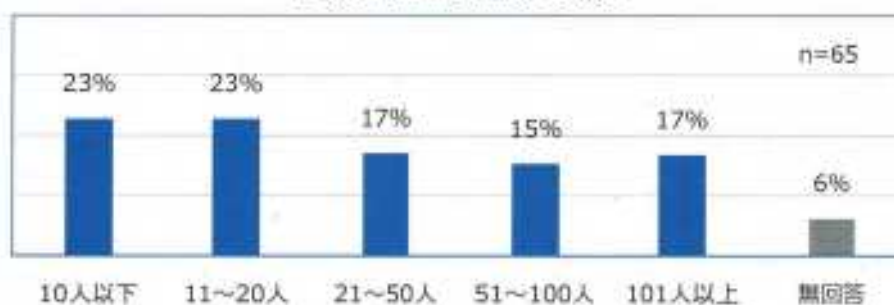
	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全 体	64	31	28	40	38	34	28	25
	100	48%	44%	63%	59%	53%	44%	39%
古典芸能(琉球舞踊・組踊・八重山舞踊等)	33	22	17	22	20	17	16	15
	100	67%	52%	67%	61%	52%	49%	46%
古典音楽(琉球古典音楽・八重山古典音楽等)	18	10	7	9	8	11	10	9
	100	56%	39%	50%	44%	61%	56%	50%
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	5	4	4	6	6	6	5
	100	63%	50%	50%	75%	75%	75%	33%
沖縄芝居	3	2	2	2	2	2	2	1
	100	67%	67%	67%	67%	67%	67%	33%
空手古武道	3	1	1	1	2	2	2	1
	100	33%	33%	33%	67%	67%	67%	33%
演劇(現代劇・ミュージカル・その他)	3	2	-	1	1	2	1	1
	100	67%	-	33%	33%	67%	33%	33%
舞踊(バレエ・ダンス・フラ・その他)	7	5	4	3	2	2	3	2
	100	71%	57%	43%	29%	29%	43%	29%
お笑い・パフォーマンス・その他	3	1	1	2	2	1	-	-
	100	33%	33%	67%	67%	33%	-	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	1	-	-	-	-	-	-
	100	100%	-	-	-	-	-	-
歌謡曲	1	1	-	-	-	-	-	-
	100	100%	-	-	-	-	-	-
クラシック(オペラ・オーケストラ等)	4	-	-	2	3	2	-	-
	100	-	-	50%	75%	50%	-	-
能・歌舞伎・寄席	1	-	1	1	1	-	-	-
	100	-	100%	100%	100%	-	-	-
その他	12	1	2	6	5	8	-	-
	100	8%	17%	50%	42%	67%	-	-

(3) 団体の構成員の人数

団体の構成員の人数は、20人以下が46%を占めており、以下「21～50人」「51～100人」「100人以上」は、15%～17%で、ほぼ同じ割合となっている。

活動分野別では古典音楽と琉球民謡で101人以上の割合が高い。

図表5. 団体の構成員の人数



図表6. 活動分野別・構成員の人員

	合計	10人 以下	11～20 人	21～50 人	51～100 人	101人 以上	無回答
全 体	65	14	15	11	10	11	4
	100%	22%	23%	17%	15%	17%	6%
古典芸能（琉球舞踊・組踊・八重山舞踊等）	34	6	9	8	4	6	1
	100%	18%	27%	24%	12%	18%	3%
古典音楽（琉球古典音楽・八重山古典音楽等）	18	2	1	3	4	7	1
	100%	11%	6%	17%	22%	39%	6%
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	1	-	1	2	3	1
	100%	13%	-	13%	25%	38%	13%
沖縄芝居	3	-	3	-	-	-	-
	100%	-	100%	-	-	-	-
空手古武道	3	-	1	1	1	-	-
	100%	-	33%	33%	33%	-	-
演劇（現代劇・ミュージカル・その他）	3	-	2	-	1	-	-
	100%	-	67%	-	33%	-	-
舞踊（バレエ・ダンス・フラ・その他）	7	2	1	-	3	1	-
	100%	29%	14%	-	43%	14%	-
お笑い・パフォーマンス・その他	3	-	1	1	1	-	-
	100%	-	33%	33%	33%	-	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	-	-	-	1	-	-
	100%	-	-	-	100%	-	-
歌謡曲	1	-	-	-	1	-	-
	100%	-	-	-	100%	-	-
クラシック（オペラ・オーケストラ等）	4	2	-	2	-	-	-
	100%	50%	-	50%	-	-	-
能・歌舞伎・寄席	1	-	-	1	-	-	-
	100%	-	-	100%	-	-	-
その他	12	5	5	-	1	-	1
	100%	42%	42%	-	8%	-	8%

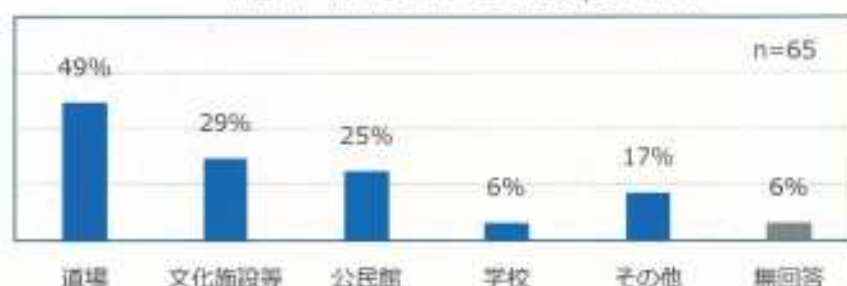
3. 稽古場所

(4) 稽古などを行う主な施設

稽古などを行う主な場所は、「道場」が49%で最も多く、以下「文化施設等」(29%)、「公民館」(25%)と続く。これは団体の活動分野が古典芸能や古典音楽、琉球民謡が上位を占めているためと言える。

活動分野でみると、古典芸能、古典音楽、琉球民謡は「道場」以外に「文化施設」や「公民館」の利用も比較的多い。

図表7. 稽古などを行う主な施設(複数回答)



図表8. 活動分野別・稽古などを行う主な施設(複数回答)

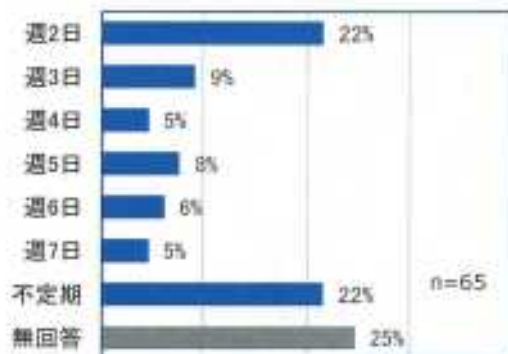
	合計	道場	文化施設等	公民館	学校	その他	無回答
全体	65	32	19	16	4	11	4
	100	49%	29%	25%	6%	17%	6%
古典芸能(琉球舞踊・総踊・八重山舞踊等)	34	21	9	8	3	2	-
	100	62%	27%	24%	9%	6%	-
古典音楽(琉球古典音楽・八重山古典音楽等)	18	9	6	7	2	2	-
	100	50%	33%	39%	11%	11%	-
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	5	4	4	-	3	1
	100	63%	50%	50%	-	38%	13%
沖縄芝居	3	2	1	1	-	-	-
	100	67%	33%	33%	-	-	-
空手古武道	3	1	2	1	-	-	-
	100	33%	67%	33%	-	-	-
演劇(現代劇・ミュージカル・その他)	3	1	-	1	-	2	-
	100	33%	-	33%	-	67%	-
舞踊(バレエ・ダンス・フラ・その他)	7	4	1	-	-	2	1
	100	57%	14%	-	-	29%	14%
お笑い・パフォーマンス・その他	3	1	-	1	-	2	-
	100	33%	-	33%	-	67%	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	-	-	-	-	1	-
	100	-	-	-	-	100	-
歌謡曲	1	-	-	-	-	1	-
	100	-	-	-	-	100	-
クラシック(オペラ・オーケストラ等)	4	-	4	-	-	1	-
	100	-	100%	-	-	25%	-
能・歌舞伎・寄席	1	1	-	1	-	-	-
	100	100%	-	100%	-	-	-
その他	12	4	2	3	1	3	2
	100	33%	17%	25%	8%	25%	17%

(5) 稽古などを行う曜日・時間

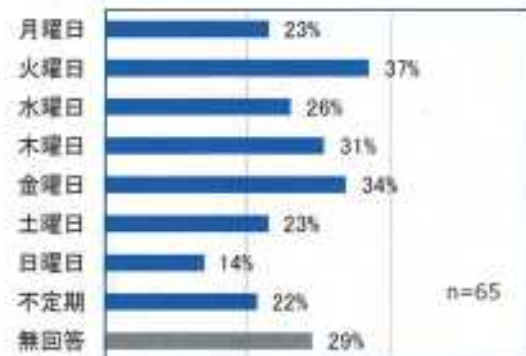
稽古を行う回数は「週2日」(22%)が最も多く、次に「週3日」、「週5日」と続く。加重平均で稽古を行う日数を算出すると、「3.7日/週」で1年間では約192日となる。

稽古する曜日は「火曜日」(37%)が最も多く、時間は「18時から23時」が主な時間帯となっている。また、稽古にかかる時間は、2時間から3時間程度が多く見られる。

図表9. 週あたりの稽古を行う回数



図表10. 稽古を行う曜日



図表 11. 活動分野別・稽古する回数

	合計	週2日	週3日	週4日	週5日	週6日	週7日	不定期	無回答
全体	65	14	6	3	5	4	3	14	16
	100	22%	9%	5%	8%	6%	5%	22%	25%
古典芸能(琉球舞踊・組踊・八重山舞踊等)	34	9	5	2	4	2	-	5	7
	100	27%	15%	6%	12%	6%	-	15%	21%
古典音楽(琉球古典音楽・八重山古典音楽等)	18	7	2	1	1	2	-	4	1
	100	39%	11%	6%	6%	11%	-	22%	6%
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	3	1	-	-	1	-	1	2
	100	38%	13%	-	-	13%	-	13%	25%
沖縄芝居	3	-	-	-	1	-	-	-	2
	100	-	-	-	33%	-	-	-	67%
空手古武道	3	-	1	1	-	1	-	-	-
	100	-	33%	33%	-	33%	-	-	-
演劇(現代劇・ミュージカル・その他)	3	-	1	-	-	-	-	1	1
	100	-	33%	-	-	-	-	33%	33%
舞踊(バレエ・ダンス・フラ・その他)	7	-	1	-	-	2	2	-	2
	100	-	14%	-	-	29%	29%	-	29%
お笑い・パフォーマンス・その他	3	-	1	-	-	-	1	1	-
	100	-	33%	-	-	-	33%	33%	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	100	-	100%	-	-	-	-	-	-
歌謡曲	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	100	-	100%	-	-	-	-	-	-
クラシック(オペラ・オーケストラ)	4	-	-	-	-	-	-	3	1
	100	-	-	-	-	-	-	75%	25%
能・歌舞伎・寄席	1	-	-	-	-	-	1	-	-
	100	-	-	-	-	-	100%	-	-
その他	12	2	-	2	-	-	-	3	5
	100	17%	-	17%	-	-	-	25%	42%

(6) 稽古の場所を探す方法

稽古の場所を探す団体は、全体の2割強程度で、約8割の団体は「いつも同じ場所なので探さない」としている。

探す方法で最も多いのは、インターネット、SNSなどである。

その他の内容は、「広さが必要な時」「直接施設への電話」「過去の記録」である。

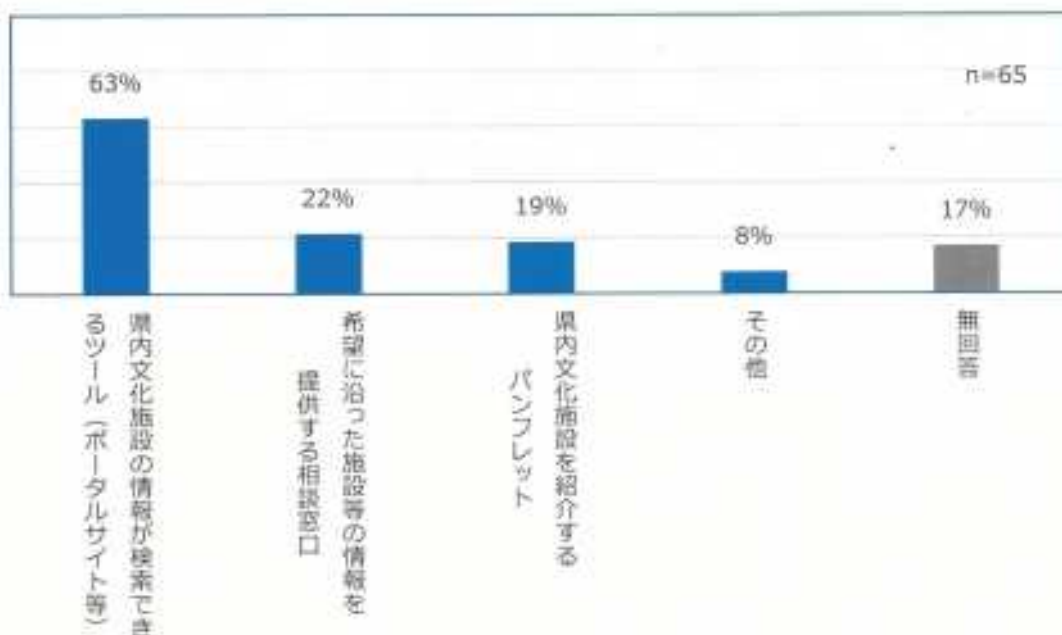
図表12. 稽古の場所を探す方法



(7) 舞台発表や稽古場所の情報入手するために、あればいいと思うもの

舞台発表や稽古場所の情報入手のために、あればいいと思うものは「県内文化施設の情報が検索できるツール（ポータルサイト等）」が62%で特に多い。

図表13. 舞台発表や稽古場所の情報入手であればいいと思うもの

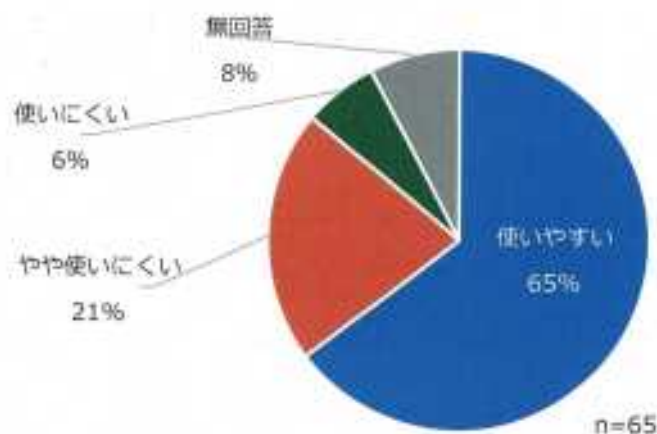


(8) 稽古などを行う施設の使い勝手について

稽古などを行う施設の使い勝手については65%が「使いやすい」としている一方、27%は使いにくいとしている。

使いやすい理由では、駐車場があることや音響設備が良いなどが主である。逆に使いにくい理由は様々で、舞台が狭いや予約が取りにくい、音響設備が不十分、駐車場などである。

図表14. 稽古などを行う施設の使い勝手



「使いやすい」とする理由

- 国立劇場おきなわ稽古場は稽古内容に合わせて稽古場を選択する事ができ、駐車場が充実しているため
- 音響設備や鏡姿見できる施設、広い
- 借用申請および支払いが簡単、駐車場がある、安い（空調込みの金額設定になっている）
- 音響機材がそろっている、交通の利便がいい
- 通常は体育館を使用しているが、本番前など稽古が連日つづく時は、場所探しに苦労する。

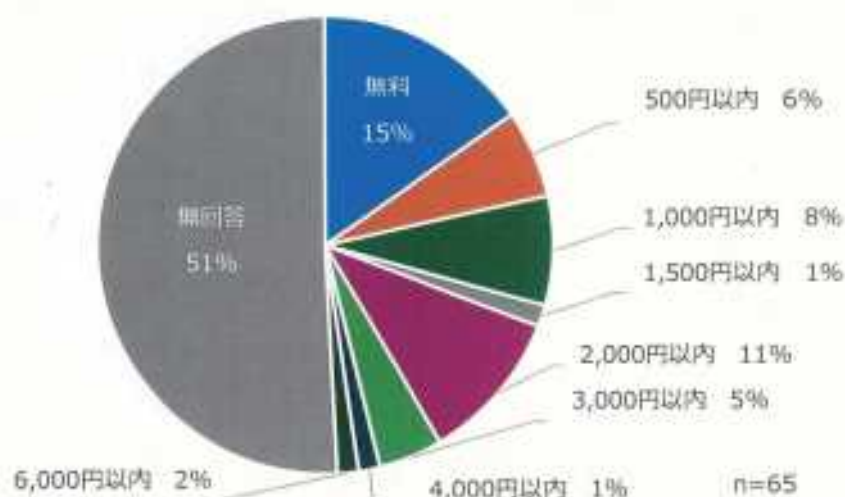
「使いにくい」とする理由

- 舞台の奥行きがない
- 手続きが面倒だったり、あきが少ない
- 施設等の老朽
- 箏は楽器が大きいので場所が必要
- 使用料が高い、予約が取りづらい、搬入しづらい等
- バレエは床が特別でないといけないうことと、広さが必要で、なかなか好条件な場所がない
- 夏場の室温が高く、熱中症の危険性が心配
- 音響設備が不十分な場合がある（リハーサル等の時）
- 駐車場

(9) 稽古で使う施設の利用料金

稽古で使用する施設の料金は、公民館など「無料」が15%で、有料では1時間あたり、500円から2,000円が主な料金となっている。「無回答」は51%を占めており、主に古典芸能や古典音楽など道場を有している分野であるが、ふだん道場を主に使用している古典芸能の団体も稽古で公共施設などを使用している。

図表15. 1時間あたり稽古場料金



(10) 稽古で使う施設の利用料金に対する評価

施設の利用料金は、「高い」、「やや高い」の合計が20%に対し、「安い」は11%で、「高い」が9%ポイント上回っている。料金別で見ると、1時間あたり1,000円以内から「やや高い」とする回答が見られる。

※稽古の時間が主に2～3時間のため、1,000円でも1回あたり2,000円から3,000円程度かかる。

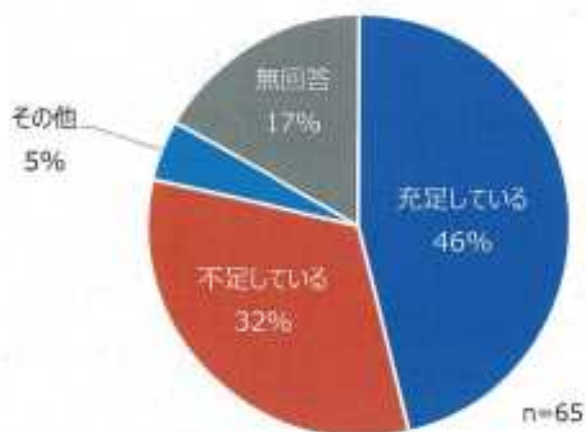
図表16. 稽古で使う施設の利用料金に対する評価



(11) 稽古場所の充足度について

稽古場所の充足度では、「充足している」が46%に対し、「不足している」は32%となっている。稽古場が不足している分野は、「沖縄芝居」「演劇」「お笑い」「ジャズ・ロック・ポップス」「歌謡曲」「能・歌舞伎・寄席」で割合が高い。

図表17. 稽古場所の充足度



図表 18. 活動分野別・稽古場所の充足度

	合計	充足している	不足している	その他	無回答
全 体	65	30	21	3	11
	100	46%	32%	5%	17%
古典芸能（琉球舞踊・組踊・八重山舞踊等）	34	19	10	2	3
	100	56%	29%	6%	9%
古典音楽（琉球古典音楽・八重山古典音楽等）	18	11	6	-	1
	100	61%	33%	-	6%
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	6	1	-	1
	100	75%	13%	-	13%
沖縄芝居	3	2	1	-	-
	100	67%	33%	-	-
空手古武道	3	2	1	-	-
	100	67%	33%	-	-
演劇（現代劇・ミュージカル・その他）	3	1	2	-	-
	100	33%	67%	-	-
舞踊（バレエ・ダンス・フラ・その他）	7	3	2	-	2
	100	43%	29%	-	29%
お笑い・パフォーマンス・その他	3	-	3	-	-
	100	-	100%	-	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	-	1	-	-
	100	-	100%	-	-
歌謡曲	1	-	1	-	-
	100	-	100%	-	-
クラシック（オペラ・オーケストラ）	4	1	2	1	-
	100	25%	50%	25%	-
能・歌舞伎・寄席	1	-	1	-	-
	100	-	100%	-	-
その他	12	5	2	-	5
	100	42%	17%	-	42%

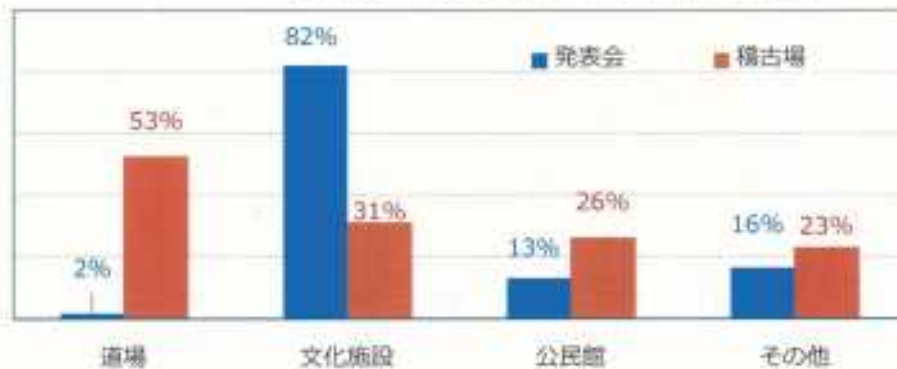
5. 発表場所

(12) 発表会などを行う主な施設

発表会などを行う主な場所は、「文化施設」が82%で最も多く、次に「公民館」(13%)と続く。稽古は道場が主で、発表会は文化施設が主となっている。

分野別で見ると、発表会場は、ほとんどの分野で文化施設が主である。なお、その他では、ライブハウス、伊平屋村産業連携拠点センター、アサギ施設、豊年祭、学校などである。

図表19: 発表などを行う主な施設 (無回答除く)



図表 20. 活動分野別・稽古する場所

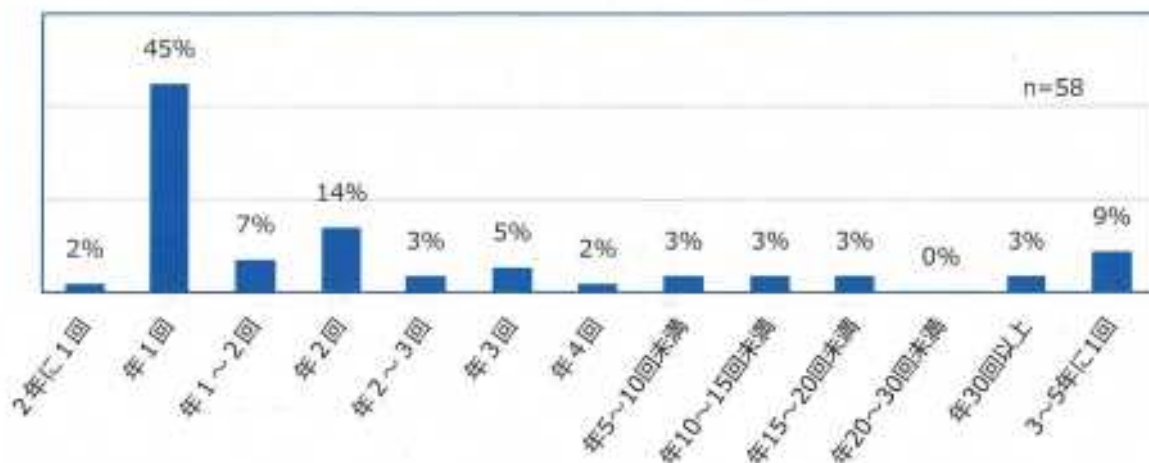
	合計	道場	文化施設	公民館	その他
全 体 (無回答を除く)	61	1	50	8	10
	100	2%	82%	13%	16%
古典芸能 (琉球舞踊・組踊・八重山舞踊等)	33	1	27	7	3
	100	3%	82%	21%	9%
古典音楽 (琉球古典音楽・八重山古典音楽等)	18	-	16	5	-
	100	-	89%	28%	-
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	-	7	2	-
	100	-	88%	25%	-
沖縄芝居	2	-	2	-	-
	100	-	100%	-	-
空手古武道	3	-	2	2	-
	100	-	67%	67%	-
演劇 (現代劇・ミュージカル・その他)	2	-	2	-	-
	100	-	100%	-	-
舞踊 (バレエ・ダンス・フラ・その他)	7	-	7	-	1
	100	-	100%	-	14%
お笑い・パフォーマンス・その他	3	-	2	1	-
	100	-	67%	33%	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	-	1	-	-
	100	-	100%	-	-
歌謡曲	1	-	1	-	-
	100	-	100%	-	-
クラシック (オペラ・オーケストラ)	3	-	3	-	-
	100	-	100%	-	-
能・歌舞伎・落席	1	-	-	1	-
	100	-	-	100%	-
その他	10	-	6	-	7
	100	-	60%	-	70%

(13) 舞台発表会の頻度

舞台発表会の頻度は、「年1回」が45%で最も多く、次に「年2回」(14%)となっている。舞台発表の回数を加重平均で算出すると1年に3.7回となる。

分野別にみると、開催頻度が高いのは「能・歌舞伎・寄席」の35回/年で、以下「クラシック(オペラ・オーケストラ)」が14.9回/年、「お笑い・パフォーマンス・その他」が13.2回/年と続き、突出して高いが、その他の分野では年3回前後となっている。

図表21. 舞台発表会の頻度



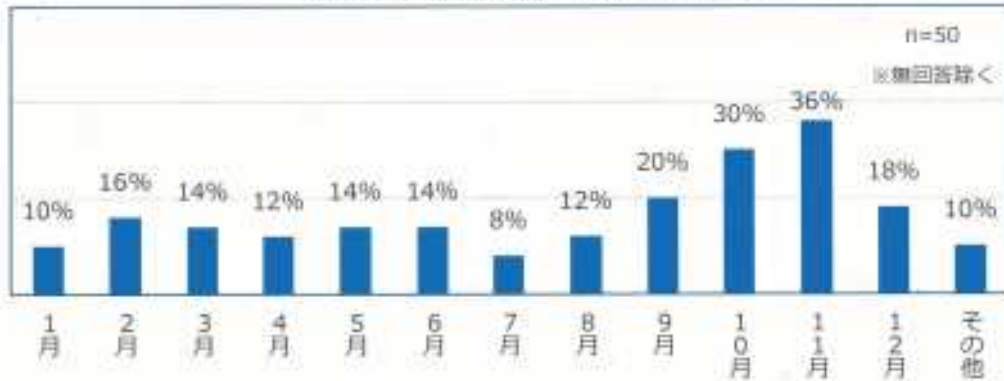
図表22. 分野別・舞台発表会の頻度



(14) 舞台発表会の開催月

舞台発表会の開催月は、「11月」が36%で最も多く、以下「10月」(30%)、「9月」(20%)と続き、秋口に集中する傾向が見られる。

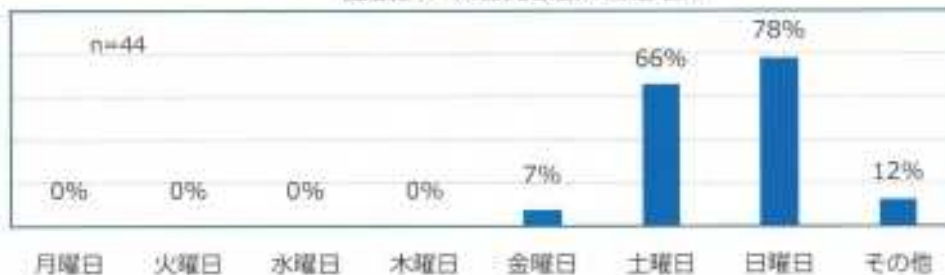
図表23. 舞台発表会の開催月（複数回答）



(15) 舞台発表会の開催曜日及び時間（複数回答）

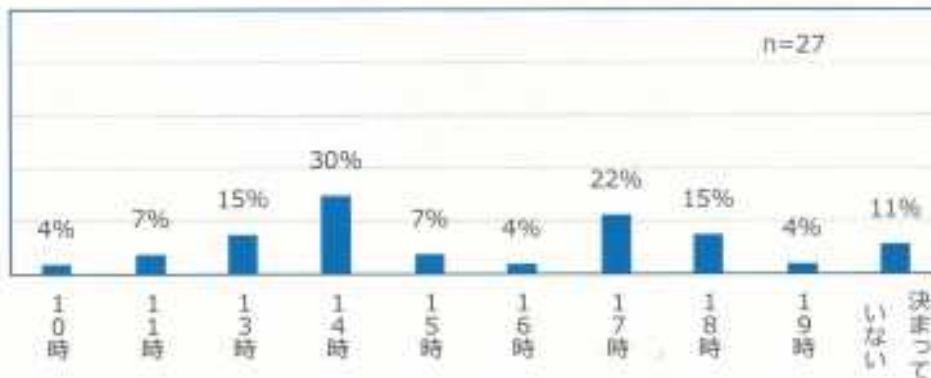
舞台発表会の開催曜日は、「日曜日」が78%で最も多く、次に「土曜日」(66%)が続き、土日に集中している。開始時間は午後2時や夕方5時～6時が多い。

図表24. 舞台発表会の開催曜日



舞台発表会の開始時間は、「14時」が30%で最も多く、次に「17時」(22%)が続き、このように発表会は、土日の午後1時～2時、午後5時～6時に集中している。

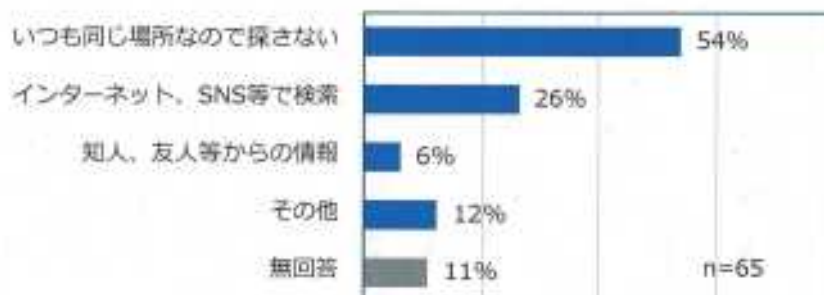
図表25. 舞台発表会の開始時間



(16) 舞台発表会の場所を探す方法（複数回答）

舞台発表会の場所を探す方法は、「インターネット、SNSなどで検索」が26%で最も多い。但し、5割強の団体は「いつも同じ場所なので探さない」としている。

図表26. 舞台発表会の場所を探す方法



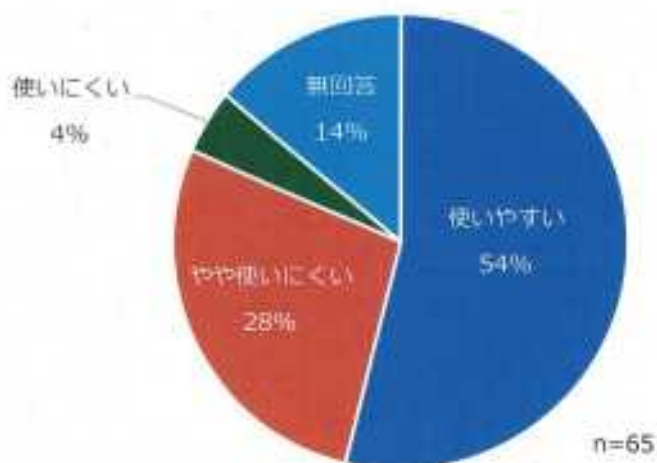
(17) 舞台発表会で、よく使用する施設の使い勝手について

舞台発表会でよく使用する施設の使い勝手は「使いやすい」が54%に対し、使いにくいのは「やや使いにくい」（28%）、「使いにくい」（4%）を合わせて32%である。

使いやすいとする主な理由は、設備が整っていることや楽屋が使いやすい、駐車場が広いことなどである。

一方、使いにくい理由では、音響設備などが整備されていないことや老朽化のほか楽屋や控室の場所や悪く狭い、料金が低い、駐車場が狭いなどとなっている。

図表27. 舞台発表会で、よく使用する施設の使い勝手について



【使いやすい理由】

- 沖縄芝居に不可欠な吊り物（幕）を使うための設備がある
- 会場の舞台と控室の往来、ひな壇の出し入れ、舞台両そでの広さ、どん帳開閉のスムーズ

きに満足

- 嘉手納町内にあるかでな文化センターなので使用しやすい
- 国立劇場おきなわ大劇場→控室が多い、駐車場が充実している
- 施設で舞踊公演に必要なものが整っている
- スタジオから近い、
- 設備が整っている
- 駐車場がある、駐車場が広い、無料
- 楽屋が使いやすい
- 場所によりますが地域でやることが多いのでほとんど同じ場所で使いやすいです。駐車場があること、楽屋として使える場所が多いため
- 広さ（舞台）、座席数がある
- 舞台スタッフがそろっている、十分な駐車スペース
- 程よいスペースであることと、何年も使用しつづけているので
- ほとんどが大ホールなので事足りるため（主催公演の場合）
- 舞台と楽屋が近い

【使いにくい理由】

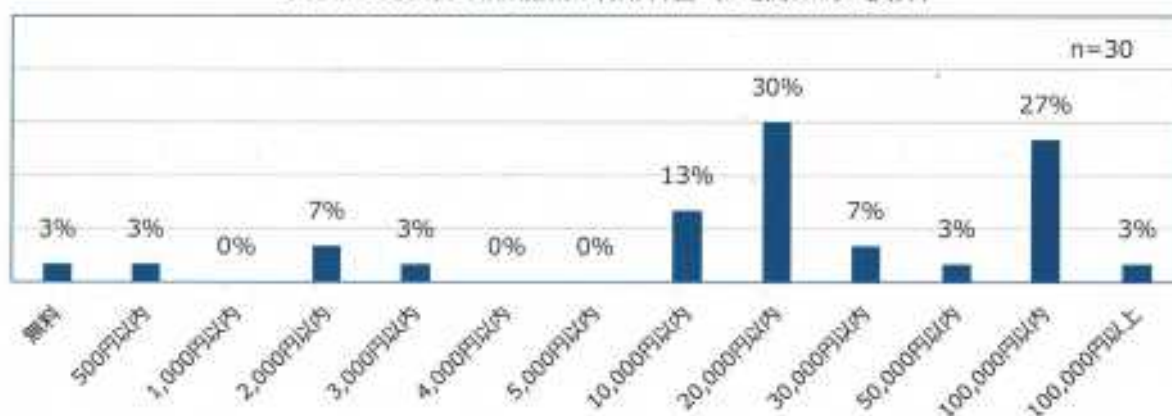
- 音響、照明等の老朽
- 楽屋が一つのフロアにない
- 楽屋の位置、スペースよくない
- 劇場はシンポジウムや講演会場も兼ねて作られてることが多く、バトンが少なすぎるなどできない事も多い
- 国立劇場、市民会館、設備は整っているが金額が高い、駐車場が足りない
- 箏は大きな楽器なのでたくさんの数になると控室がたりません。
- 十分な楽屋、駐車場、音響、照明
- 駐車場が少ない、楽屋が複数で別れる
- 手続きが面倒
- どこでもやれる様に準備はしているがベストではないので
- 舞台と控室が離れている為、連絡を取り合うのに不便
- ロビーの演出等で制約が出てくる場合がある
- 会場によって打ち合わせの煩雑さが違う、担当者によって対応が違う、必要な備品等がそろっていない、時間帯による予約(例えば 2 時間だけ借りたくても難しい)、冷房代が高い。
- 公民館の設備が古い
- 料金が高い

(18) 発表会で使う施設の利用料金

舞台発表会で使用する施設の利用料金は、各団体の使用する時間や施設により、バラつきがあるため、1時間あたりの金額で換算した。

その結果、最も多いのは「20,000円以内」(30%)で、次に「100,000円以内」(27%)と続き、中心値は「10,000円以内～20,000円以内」となる。

図表28. 発表会で使う施設の利用料金（1時間あたりに換算）



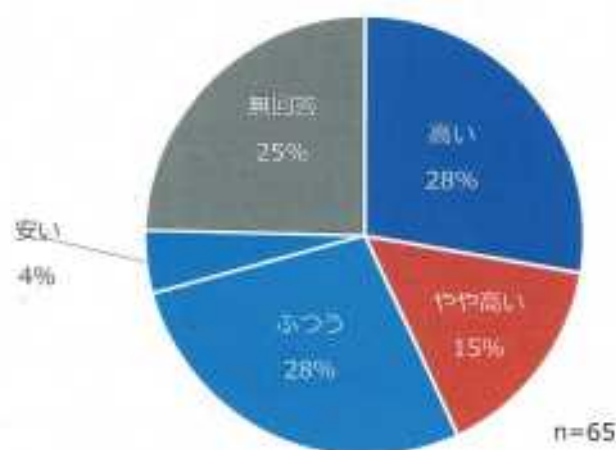
【料金の回答例】

- ・8時間で60万円／8時間で80万円／9時間で178,200円／2日間で50万円／36時間で40～50万円
- リハーサル・本番2日（17時間）で450,000円／終日25～50万円／13時間で20万円前後／4時間で55,000円／4時間で2,000円

(19) その施設の利用料金の評価

施設の利用料金は、「高い」(28%)、「やや高い」(15%)を合わせると、43%が高いとみている。一方「安い」は僅か4%で、「高い」の割合が39%ポイント上回っている。

図表29. 施設の利用料金の評価

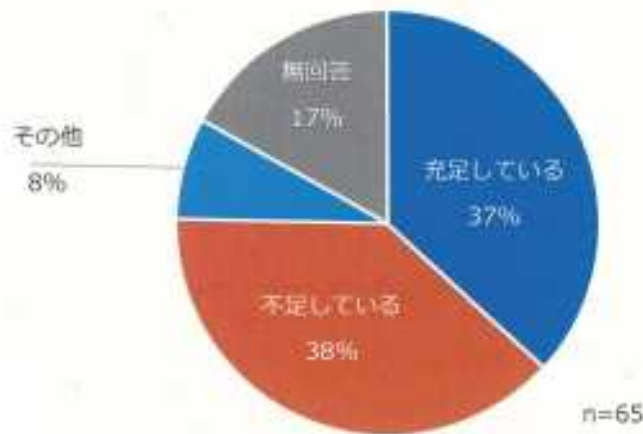


(20) 発表会等で利用する施設の充足度

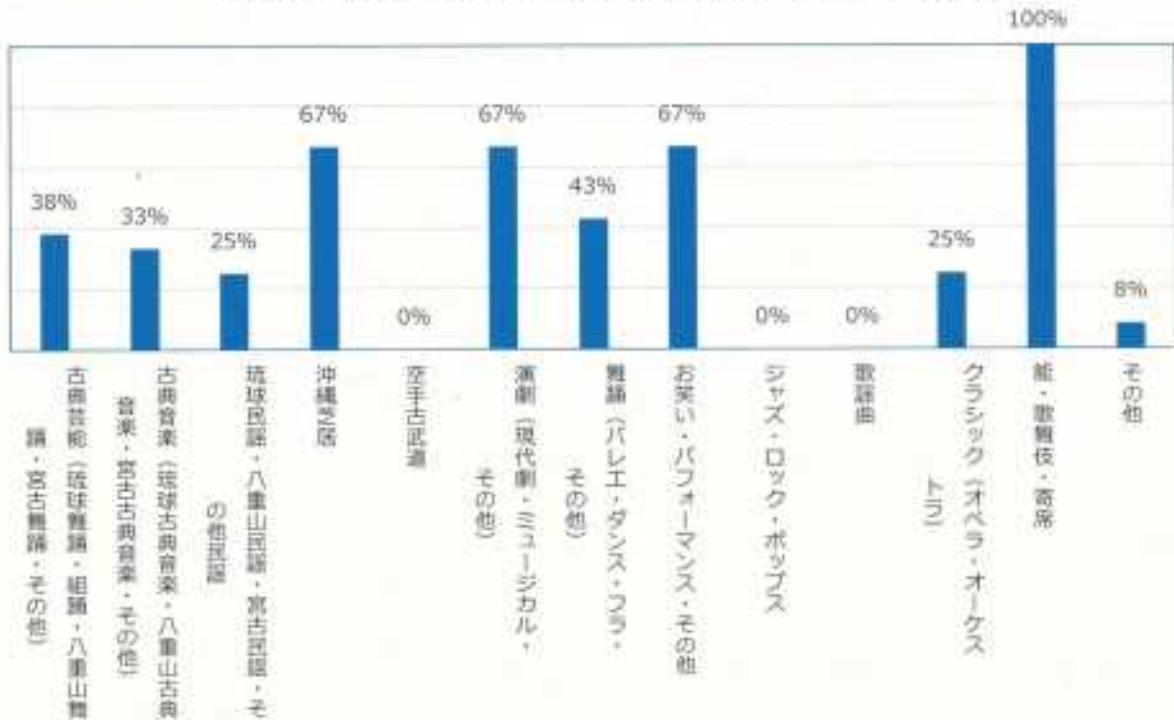
発表会等で利用する施設の充足度については、「充足している」(37%)と「不足している」(38%)が拮抗している。

団体別で施設が不足しているとする割合が高いのは、能・歌舞伎・寄席の100%、沖縄芝居、演劇、お笑い・パフォーマンス(各67%)である。

図表30. 発表会等で利用する施設は充足度



図表31. 団体別・発表会で利用する施設が不足しているとする割合

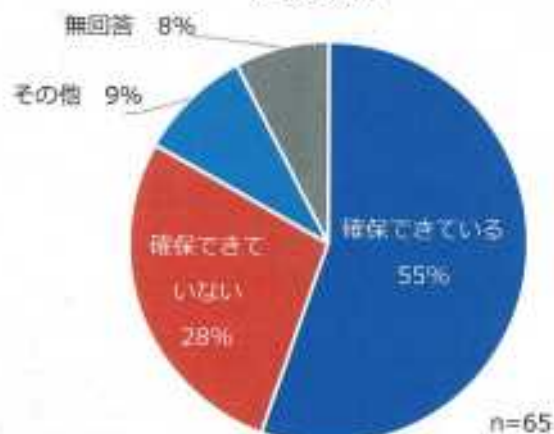


6. 舞台道具等について

(21) 活動で使用する道具・小道具・衣装などの保管スペースの確保状況

道具等の保管場所は全体の 57% が確保できており、28% の団体は確保できていない。

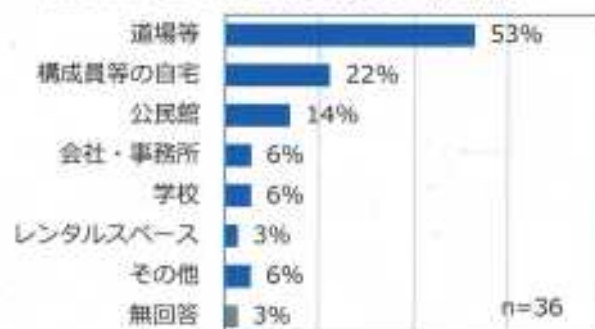
図表32. 道具・小道具・衣装などの保管スペースの確保状況



(22) 道具・小道具・衣装などの保管場所について

道具等の保管場所が確保できていると回答した 36 団体の保管場所で、最も多いのは「道場」の 53% で、次に「構成員の自宅」(22%) である。以下では「公民館」「会社・事務所」「学校」などである。

図表33. 道具・小道具・衣装などの保管場所



(23) 舞台道具・小道具・衣装などの保管スペースについて課題

課題については、保管スペースが足りないことや湿度対策など管理が課題となっている。以下、課題内容。

- 管理が充分できない
- レンタルスペースがない
- 場所もないが、沖縄は湿度も高くて劣化が早いので、空調管理も大変
- レンタルスペースが使用できるといいのですが、月額が高いため沖縄在住の方は割引等のシステムがあると大変助かります。
- カーテンがないので、道具が日焼けしてしまっている
- 作り手育成の取り組みが閉鎖的に感じる
- 発表会の時に前もって前日でも持ち込みOKであれば大変助かる
- 事務局員の自宅で保管しているため、アパート住まいの場合、保管場所がとれない
- スペース、温湿度の管理、使い勝手
- スペースが足りない。スペース限られるので道具処分せざるを得ない
- 専用倉庫が必要

7. スタッフ・人材について

(24) 専門職員の在籍（外注含む）状況について

専門職員では、「舞台監督」が29%で最も多く、以下「プロデューサー」(22%)、「演出家」、「音響担当」(各20%)と続く。なお、半数の団体では専門職員が不在としている。

図表34. 専門職員の在籍状況



(25) スタッフの充足状況について

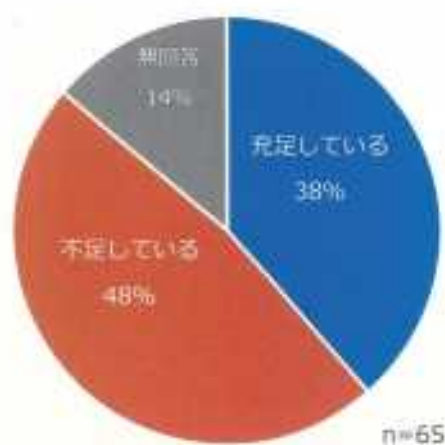
スタッフの充足状況は、「充足している」が38%に対し、「不足している」が48%と不足の割合が10%ポイント多い。

不足している人材は、IT 関係から地謡までと幅広い。

不足している人材は下記の通り

- ITに強い人
- 教える人、衣装や小道具などの管理する人
- 営業、ステマネ、ライブラリアン
- 舞台監督、音響照明
- 事務局をやる人
- 道具準備、舞台設置
- 地謡

図表35. スタッフの充足状況



8. 文化発信拠点の充実について

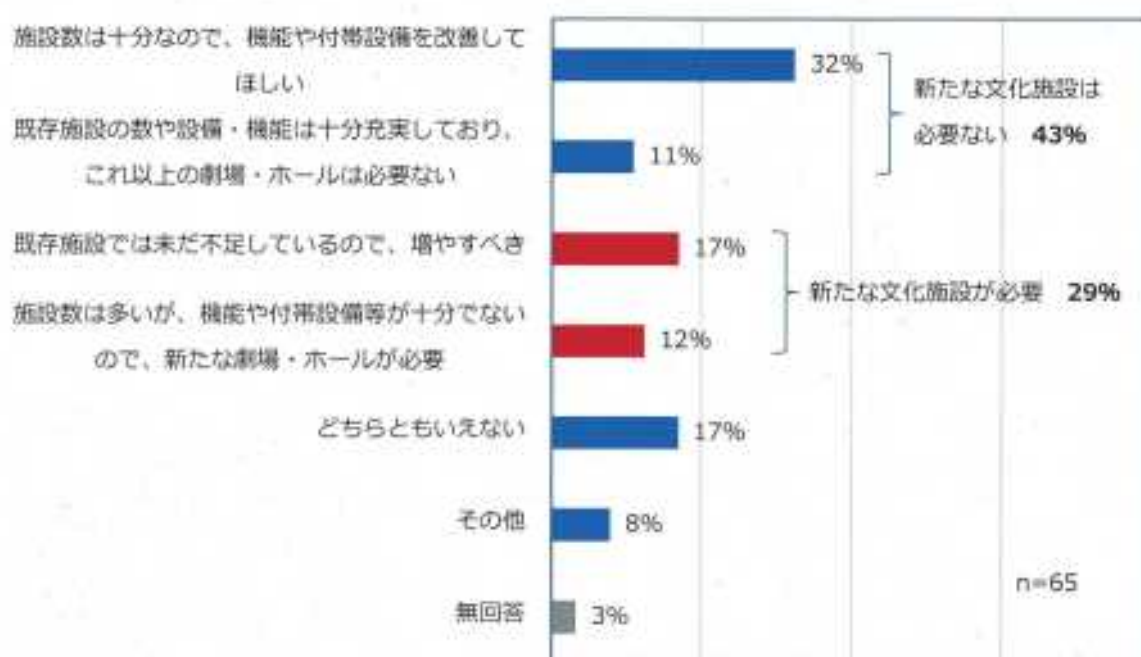
(26) 新たな文化施設（劇場・ホール等）の必要性について

新たな文化施設について、必要とする意見が29%に対し、必要ないとする意見が43%と、必要ないとする意見が多い。

但し、「その他」の記述では「600名収容規模のホールが足りない」や「なはーと大劇場ぐらいの劇場はもう1つぐらいあってほしいです」「リハーサルができる施設を増やしてほしい」などがあり、新たな施設が必要とする意見は34%になる。

なお、新たな文化施設が必要とする割合が高い活動分野は、「演劇」「ジャズ・ロック・ポップス」「歌謡曲」（各100%）や「お笑い・パフォーマンス・その他」（66%）である。

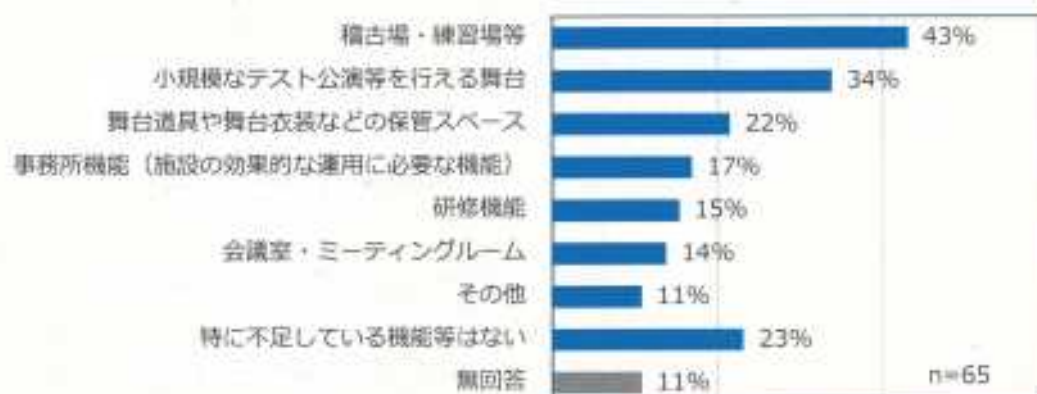
図表36. 新たな文化施設（劇場・ホール等）の必要性について



(27) 既存の文化施設（劇場・ホール等）に不足していると思う機能や付帯施設

既存の文化施設に不足していると思う機能や付帯施設で最も多いのは、「稽古場・練習場等」の43%で、次に「小規模なテスト公演等を行える舞台」（34%）となっている。
活動分野でみると「稽古場・練習場等」は沖縄芝居と演劇、お笑いなどで割合が高い。

図表37. 既存の文化施設（劇場・ホール等）に不足している機能や付帯施設



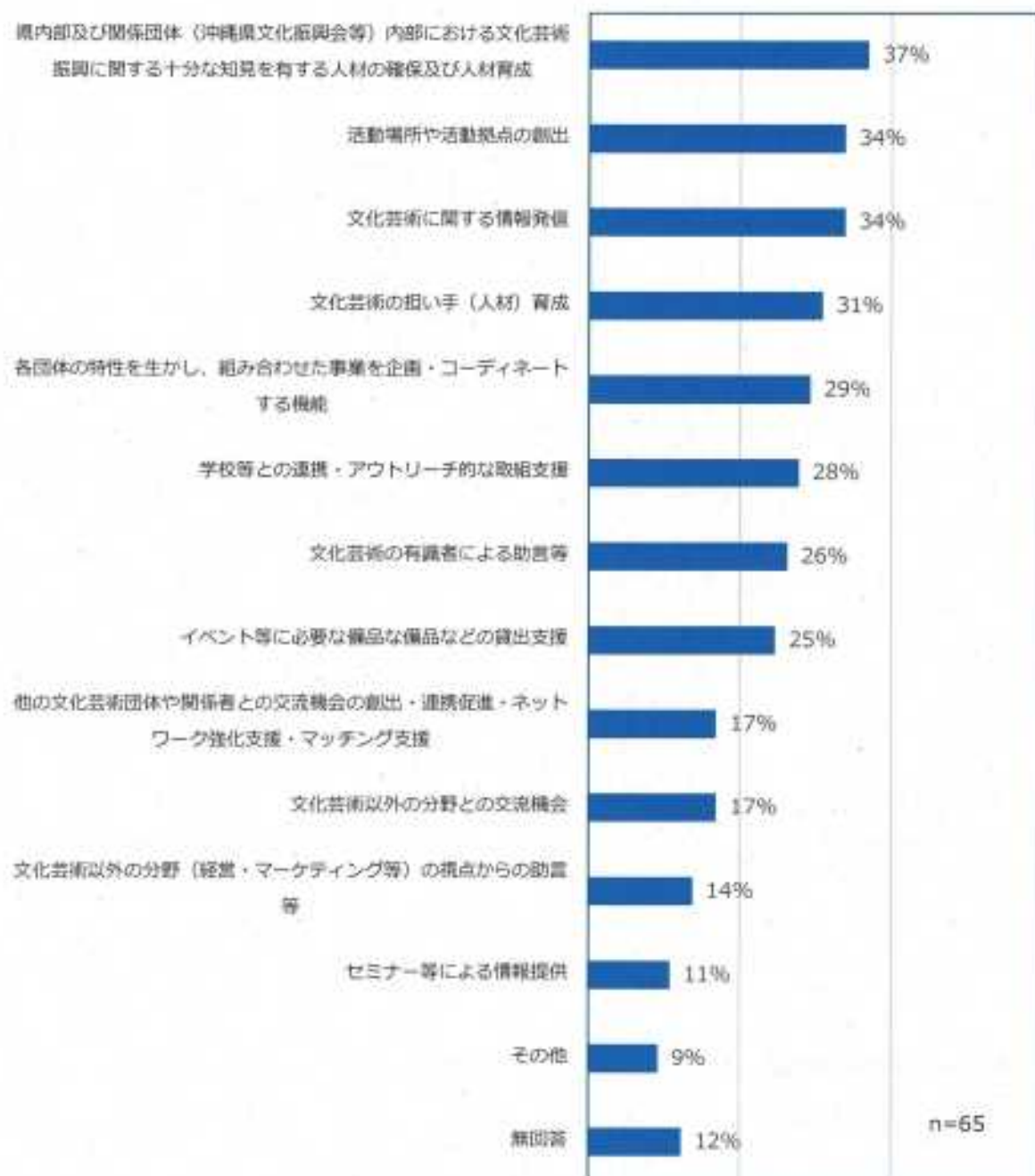
図表 38. 活動分野別・稽古する場所

活動分野	合計	稽古場・練習場等	小規模なテスト公演等を行える舞台	舞台道具や舞台衣装などの保管スペース	事務所機能（施設の効果的な運用に必要な機能）	研修機能	会議室・ミーティングルーム	その他	特に不足している機能等はない
主体	65	28	22	14	11	10	9	7	15
	100	43%	34%	22%	17%	15%	14%	11%	23%
古典芸能（琉球舞踊・組踊・八重山舞踊等）	34	14	10	7	7	7	4	2	11
	100	41%	29%	21%	21%	21%	12%	6%	32%
古典音楽（琉球古典音楽・八重山古典音楽等）	18	8	9	5	1	5	4	-	8
	100	44%	50%	28%	6%	28%	22%	-	44%
琉球民謡・八重山民謡・宮古民謡・その他	8	3	2	-	-	-	1	-	3
	100	38%	25%	-	-	-	12.5%	-	38%
沖縄芝居	3	2	1	1	1	1	-	1	-
	100	67%	33%	33%	33%	33%	-	33%	-
空手古武道	3	-	2	1	1	-	-	-	1
	100	-	67%	33%	33%	-	-	-	33%
演劇（現代劇・ミュージカル・その他）	3	2	2	1	-	2	1	-	-
	100	67%	67%	33%	-	67%	33%	-	-
舞踊（バレエ・ダンス・フラ・その他）	7	3	3	2	-	-	-	2	1
	100	43%	43%	29%	-	-	-	29%	14%
お笑い・パフォーマンス・その他	3	3	3	-	1	1	1	-	-
	100	100%	100%	-	33%	33%	33%	-	-
ジャズ・ロック・ポップス	1	1	1	-	-	-	-	-	-
	100	100%	100%	-	-	-	-	-	-
歌謡曲	1	1	1	-	-	-	-	-	-
	100	100%	100%	-	-	-	-	-	-
クラシック（オペラ・オーケストラ）	4	3	2	1	-	-	-	1	-
	100	75%	50%	25%	-	-	-	25%	-
能・歌謡伎・寄席	1	1	1	-	1	-	-	-	-
	100	100%	100%	-	100%	-	-	-	-

(28) 今後の文化芸術活動がしやすくなる支援策について

今後の文化活動がしやすくなる支援策は、「文化芸術振興に関する十分な知見を有する人材の確保及び人材育成」が37%で、最も多く、次に「活動場所や活動拠点の創出」と「文化芸術に関する情報発信」が各34%で続き、上位3位項目は最重要支援策と言える。

図表39. 今後の文化芸術活動がしやすくなる支援策



(29) 沖縄県の伝統芸能・文化芸術の振興にとって必要なこと（自由意見）

今後の伝統芸能・文化芸術の振興で必要と思うことでは、県民の関心を高めると同時に小学生など後継者の育成などが望まれている。

【自由意見一覧】

- 新しい才能のための教育の場所
- 新しい層のお客様をファンにしていく取組と技術の共有
- 沖縄県民謡団体が施設利用に関して手軽に（費用利用）出来る充実した施設作り
- 沖縄の伝統芸能・文化芸術については広がりつつあるが、地元の人々の継承者が（三線）少なくなってきているように思う
- 各方面からの金銭的な支援。特に離島の子どもたちは日常的に伝統芸能に触れてはいるが、貧困世帯が多いため研究所などに通えない。道具等を購入できない。
- 学校等との連携をお願いしたい
- かりゆし芸能公演もいいと思いますが、年に1回、2年に1回でも県主催ですべての流派団体の垣根を取りはずして関わっている人達が皆、切磋琢磨して観客と共に楽しみ感動のある舞台を沖縄の伝統芸能はすばらしい、けど今はまだ点が小さな丸チャンブルーで大きな輪を作ってください。
- 観光化、時代、時流に合わせる、流されるのではなく、島々に残る素朴な芸能、神事、祭事の保存を大事にしてほしい
- 行政の縛りの強い管理ではなく、担当者が数字だけでなく内容も共有して「感動作り」に加担することで本物のエンターテイメントが作れ、沖縄芸能・芸術が県経済に寄与するきっかけが作れると思います。
- 行政の担当者が数年で入れ替わるのではなく、十分な知識、経験を有し、平等に判断できる人材の育成。担い手側も研修、稽古を充分に行い、知識教養を高め、世界に発信しても恥ずかしくないような品格と高い水準をもった舞台の提供を行うこと
- 継承していく次世代へ、興味を持ってもらう為、文化芸能が常に身近にあり文化に触れる環境づくり
- 劇場とそれを安価に使用できる仕組みがないと思います。ガラスがはっていない、コンクリートの打ちっぱなしでもない、3,000人収容の劇場がまず必要と思う。
- 県からのバックアップが必要だと思います。

- 県立劇場（客席 600 名程度）を是非造るべき、大中小の稽古場
- コロナ禍において舞台発表等の機会が少なくなった事もあり会員数が減少の一途を辿っており、後継者育成が課題となっている。やはり伝統文化の振興には若手育成が不可欠で特に次世代を担う子供達への認知をいかに高めていくかが継承や振興の重要な鍵になると思う。
- 地域との連携で幼少時から沖縄の文化にたずさわる環境作りと学校教育に設置する行政のサポートを強化していくとありがたいです。
- 伝統芸能の担い手となる子供達の育成、各マスコミが主催する選考会があり、現在高校の推薦入試等にプラスとなっておりますが、来年から入試方法（推薦形式）が変更との事、育成側としてはそういう基準は今後も持続してほしい。
- 伝統芸能を継承するにあたり、支援・施策を充実し、特化した県の専門員を必要と考えます、宜しくお願い致します。
- 伝統文化を継承する人材
- 独自の力のみでの舞台公演の開催は資金作りに広告取りや宣伝、チケット販売等に相当の困難が伴うことから「かりゆし芸能公演」のように沖縄県主催の公演を増やしていただくと出演に向けて意欲が増大し、芸能の振興につながると思う
- 取り組む人すべてが、十分な見識を深める事。観光客や、海外公演などの「外」に目を向けるのではなく、沖縄県民が見たい、必要とするものをつくっていく事。
- 担い手の研修、稽古を充実させて水準の高い公演を提供すること
- プロ意識、自立できるように考える、甘えの構図が多い気がする
- 文化・芸術の様々な価値を社会全体で共有できる雰囲気醸成。行政の担当課への専門人材の配置。県担当課と文化振興会との連携が必要→プロパーが必要。
- 分野、流派を越えて伝統芸能として全体的な視点での取り組みが必要ではないでしょうか。伝統芸能は関わる人達だけのものではなく、沖縄全体の宝なんだという意識が必要ではないでしょうか。
- 観る側も育てないといけないと思います。沖縄芸能を幅広く、たくさんの機会の場をつくり興味をもていただくように発信側の創意工夫
- 琉舞人口の減少を懸念、学校教育の中で取り入れて欲しい
- 若い人たちの芸能活動と生活支援が充実することがたいへん大切だと思います。
- 若者に沖縄の伝統芸能に興味を持ってもらえるようなイベントを文化施設以外の場所で幅広く行うと良いのではないかと思います。体験型のイベント、公演も増やして行く。
- 芸術関係者の公的支援や、委託事業の充実(委託料の増額も)。